

The 健康応援隊!.....♡

「1万5,863人」って

何の数字が分かりますか？

表題の数字は、2017年に全国の警察に届出があった行方不明者のうち、認知症が原因だった人数です。

統計を取り始めた2012年の1・65倍にあたるそうです。2012年以降、毎年最多を更新しています。1万5,863人のうち、227人は昨年中に所在を確認できていません。

2025年には、全国で認知症の患者が700万人を超え、65歳以上の5人に1人が認知症になると予想されています。

認知症は、何らかの病気によって脳の神経細胞が壊れたり、働かなくなったりすることで、認知機能が低下し、それまでできていた社会生活ができなくなる状態のことを言います。

認知症の代表的な症状の一つが「記憶障害」です。誰でも、年を取るにつれ、物忘れが多くなりますが、だからといって認知症ではありません。加齢による物忘れは「思い

出す機能が衰えること」ですが、認知症による物忘れは「新しい記憶をつくることができないうこと」により起こっています。

「ご飯を食べたことは覚えていても、食べたものを忘れた」というのは、加齢による物忘れです。「食べたことも忘れた」という場合、認知症の疑いがあります。

認知症も、早期発見・早期治療が大切です。早く治療を始めることで、進行を遅らせることや、症状を改善することができるとも。「認知症かも?」と思ったら、早い時期に医療機関への受診や地域包括支援センター等へ相談しましょう。

(健康福祉課 保健師)

○認知症に関する相談機関

- ・古河赤十字病院
- ・認知症疾患医療センター
- ・認知症専門医療相談室
- ☎(23)7121
- ・地域包括支援センター
- ☎(84)0765
- ・健康福祉課 高齢者支援G
- ☎(84)0006 (直通)

学校コーナー

考え・進め
未来へ



五霞中学校

六月十六日に始まった総体及び各種大会が七月末で一区切りを迎えました。生徒たちはこの大会に向け、日々努力を重ねてきました。中学校での部活動は、忘れられない思い出になったことでしょう。

◇青春だった部活

サッカー部 三年 佐藤 淳史

僕は、総体に向け、二年半毎日ランニング、体幹トレーニングなど厳しい練習を乗り越え頑張ってきました。その頑張りの甲斐がありました。郡大会で十年ぶりに優勝することができました。県西大会では、悔しい結果になりましたが、チーム全員最後まで全力を出し切ることができました。



◇一生の思い出の部活動

女子ソフトテニス部 三年 板橋 玲奈

この二年半、私たちは日々努力を重ねてきました。県西大会の団体戦ではいい結果を残すことができました。個人戦では、一ペア県大会に出場する事ができました。長いようで短い



時間でしたが、全員が同じ目標に向かい練習し結果を残せたことは忘れることのできない私の財産です。たくさんの方の支えがあり頑張ることができ、感謝しています。

◇最後のコンクール

吹奏楽部 三年 笈沼 柚翠

僕は、県西大会に向け、去年の秋から練習を頑張ってきました。演奏ばかりではなく、体力づくりにも力を入れました。練習がうまくいかなかったときは、お互いにアドバイスしながら、練習に取り組みました。みんなと心が一つになったからこそ、最後まで悔いなく楽しい演奏をすることができました。



◇総体を終えて

卓球部 三年 遠藤 敬介

最後の総体に向けて、二年半毎日厳しい練習に全力で取り組みできました。総体では、県西大会に団体戦男女とも出場、個人戦男女八名出場しました。団体戦で県大会出場を決めることができました。しかし、全員が全力で応援して、精一杯戦えたので三回戦まで進めました。全員で総体に望むことができてもよかったです。

